

(平成 31. 1. 18.)

ようこそ、わが裁判所へ！

～プロフェッショナルとしての左陪席になるために

東京高等裁判所 菅野雅之

- 裁判官としての自覚とプロ意識（実力+信頼を得る努力。プロとしてのプライド。裁判官の職務の特殊性）
- 職務の基本スタンス（立場の多様性と自分の信念。合議の重要性）
- 事務処理のフローをしっかりと頭に入れる＆基礎力を身につける（その上で、自分の頭で物事を考える習慣を付ける。リーガルマインド、人間力の涵養）
- A.I ではなく生身の人間が判断者を務める意味（皆さんに答えてもらいます）
- 外から見た裁判官像
- 司法行政の目的・理解（ミクロの目とマクロの目）
- 裁判所職員としての資質、チームワーク（裁判官の独立の意味、協働、裁判所機能の強化）

- ・ 左陪席（裁判官）のイロハ（当事者に対して、チームメイトに対して）
- ・ 左陪席の特権（記録を読む時間が豊富にある etc.）
- ・ その他
 - 発信能力、調整能力（正論と柔軟性）
 - 先見性とスケジュール管理（人任せはいけません）
- ・ 仕事にメリハリを（「残業しない、休暇を取る」ためにはどうしたらよいか）

（参考）

自分のチームの審理方針を法律雑誌に掲載

- ・ 判タ1237号(平成19年)94P以下（争点整理）
- ・ 判タ1262号(平成20年)18P以下(書記官事務)